

kins University Press, Baltimore, 1971.

【編著書】

McC. Brooks, Ch. and Levey, H.A.: *Humorally-Transported Integrators of Body Function and the Development of Endocrinology*. 183—238 in McC. Brooks, Ch. and Cranfield, P.F. (eds.): *The Historical Development of Physiological Thought*. Hafner, New York, 1959.

六 投稿原稿は、コピーを一部添付すること。原稿は著者校正の際も原則として返却しないので、手元にコピーを一部残すこと。

七 著者校正は、原則として原著・総説・研究ノート・広場・資料を対象とし、初校のみとする。校正は印刷上の誤植を訂正するに留め、原稿の変更や、その他の組み替えは認めない。校正刷りの返送期日を厳守すること。期日までに返却されない場合は責了とみなす。

八 刷り上り一〇印刷ページ(四〇〇字詰原稿用紙で二四枚)までは原則として無料とし、超過分と図表製版の実費は著者負担とする。

九 論文別刷は五〇部単位とし実費で作製する。別刷希望者は校正刷同封の申込書に部数を明記すること。

一〇 原稿の送り先

〒一一三 東京都文京区本郷二丁目一一一

順天堂大学医学部医史学研究室内

日本医史学雑誌編集委員会

編集後記

本号を手にして会員の皆様はいろいろ。表紙も従来にない雰囲気をもっているが、何よりも便利に変わったと感じていただけのと思うが、一般演題が見開き二ページにびっちり収まっているので、右ページの上に演題番号と演者名がそろったことである。

昨年の総会の際に、理事評議員会で提案があり、抄録は規定の字数を越さないようにしたい。また出来れば見開き二ページにすることによって抄録号として使いやすくしたい。そうすればコピーも一枚で取りやすくなる。そこで今回横浜の第95回総会の杉田会長と編集委員会が協議して、演題申込み用紙の形式も変更し、抄録の字数に上限・下限を作った。一三〇〇〜一六〇〇字としたのである。下限は左ページにあまり余白を作らないための細工である。

四十四題の演者の皆様の御協力によって、目的は充分に果たすように思う。会員の皆様のはいかがであろうか。日本の医学会の中でも日本医史学会は個性のある学会である。縦書きの抄録は数少ない。個性を守りながらも中味を充実させ、智恵を集めることで改善していけるものはどんどん取り入れていきたい。今回の方式を次の学会に引き継いでいくべきかどうか御意見を伺いたい。横浜での盛会を祈りながら。

(大村敏郎)